

Weekly Market Report

Feb 03, 2020

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

引き続きコロナウイルス関連のヘッドラインに左右される展開

USD/JPY (1週間の値動き)



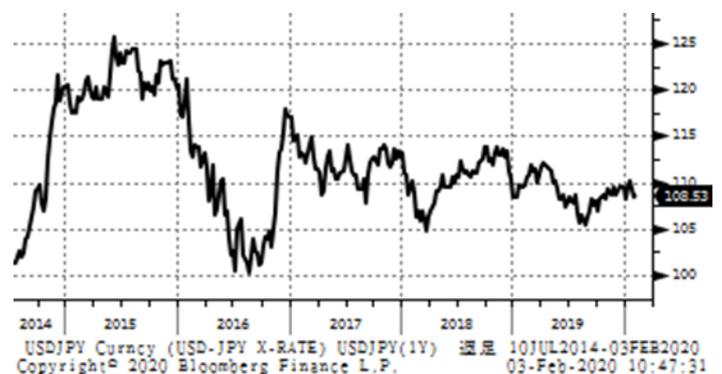
コメント

先週のドル円相場は、新型コロナウイルスの報道によって左右される展開が続き、週末にかけては感染拡大が深刻化したことに加えて、米金利低下、株価下落等もあり安値圏で取引を終えている。週初、ドル円相場は新型コロナウイルス関連の報道を受け、108円台後半でスタート。週央にかけては、良好な米国経済指標結果やFOMCで政策金利の据え置きが全会一致で決まったこと等もあり、109円台前半まで値を戻した。しかし30日、WHOが緊急事態を宣言したことから、ドル円は108円台半ば付近まで下落。その後109円台まで戻す場面もあったが、NY時間に入り、シカゴPMIの悪化、米株の大幅下落、米金利低下もあり、108円台前半まで下落しての越週となった。今週も引き続き新型コロナウイルスの拡大により、市場はリスクオフの展開が続く見込み。中国市場の動向や米国経済指標（ISM指数、雇用統計等）の結果を睨みながら、新型コロナウイルス関連のヘッドラインに左右される相場となるだろう。内容によってはもう一段階円高方向に進むものと予想する。（市場営業部/辻本）

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
2/3(月)	(中国) 製造業購買者担当指数	51.3
2/4(火)	(米国) ISM製造業指数	48.5
2/5(水)	(米国) ADP雇用統計	159K
2/5(水)	(米国) ISM非製造業指数	55.1
2/7(金)	(米国) 非農業部門雇用者数	160K

USD/JPY (5年間)



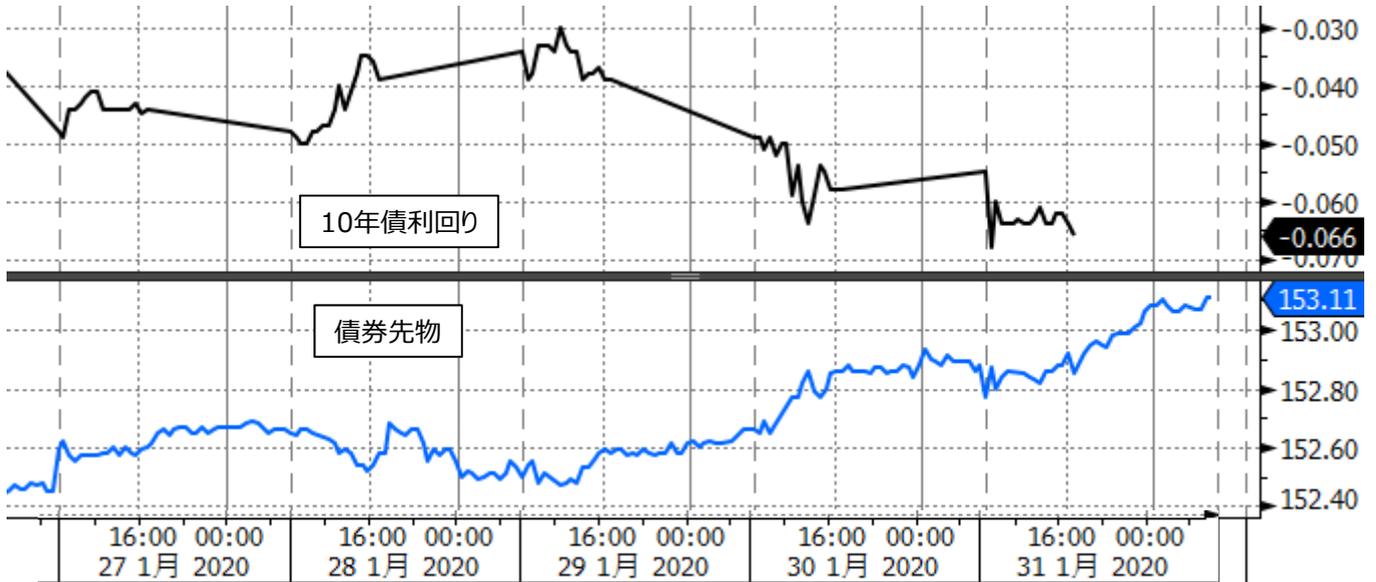
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
山添進一	106.90 – 109.50	新型コロナウイルス感染拡大懸念からリスク回避の円買いで軟調な推移を予想。ISM製造業・非製造業、雇用統計に注目したい。
梅村隼人	107.50 – 110.00	新型コロナウイルス懸念から週初は軟調な地合いを予想。しかしISM指数、雇用統計等の結果次第ではリスクオフの展開も。

2. 円金利相場概況

日米欧ともに金利低下の余地を探る展開か

10年国債金利と債券先物 (1週間の値動き)



GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright© 2020 Bloomberg Finance L.P. 03-Feb-2020 07:26:23

(出所) Bloomberg

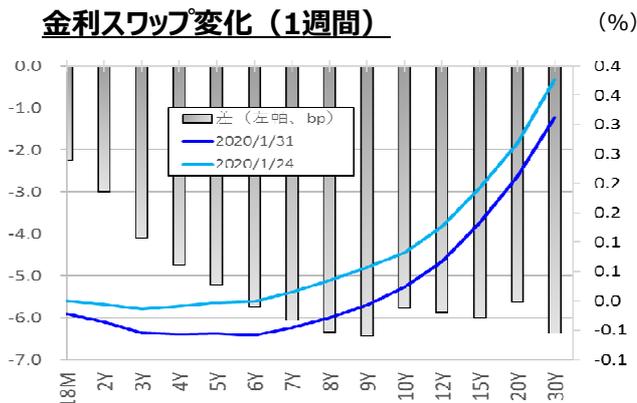
コメント

先週の円金利相場は前週の流れを引き継いで金利低下基調を維持。新型コロナウイルスの感染拡大によりリスクオフムードが強まり、グローバルに金利低下する中、10年国債利回りは▲0.06%台へ低下している。円金利スワップのイールドカーブは短期ゾーンから超長期ゾーンまで金利低下しており、下方向へパラレルシフト。一方、米イールドカーブは今週に入って再び逆イールド化しており、新型コロナウイルスの感染拡大による景気減速が懸念されている。

今週は米ISM製造業、米雇用統計等の重要指標の発表があるものの、結果のよし悪しにかかわらず、感染拡大にピークアウトの兆しが見えない限り、リスクオフの展開は継続すると思われ、日米欧の長期金利はじわじわ低下余地を探る展開となるだろう。

(市場営業部/浅川)

金利スワップ変化 (1週間)



5年円金利スワップ推移 (5年間)



今週のレンジ予想 (10年国債利回り)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
高野一歩	▲0.09% - ▲0.06%	新型肺炎の感染拡大懸念でのリスクオフは継続する見込み。海外金利もかなり低下しており、総じて堅調推移となるだろう。
廣瀬友絵	▲0.10% - ▲0.05%	新型肺炎の感染拡大により世界経済の減速懸念が高まる中、リスクオフ姿勢はさらに強まり、長期金利は低下の展開か。

3. 今週のトピックス

ユーロ相場アップデート

ユーロ圏の景気底打ち感から、底堅い展開を予想

ECB金融政策

1月23日のECB理事会では市場の予想通り、政策金利を0%に据え置き、昨年11月より再開した量的緩和政策は月200億ユーロの買い取りペースを継続する現状の金融緩和策維持を決定すると共に、金融政策戦略を総点検し2020年末までに見直すことを表明した。見直しは、「2%近く」としている現在の物価目標や、量的緩和及びマイナス金利などの政策手段、経済・金融の分析手法、市場との対話の進め方等を包括的に対象とするもの。近年は世界的に低インフレが定着しており、欧州圏の消費者物価指数【図1】も目標の2%から大きく乖離している現状。ECBとしては大胆な金融緩和を続けているにも関わらず物価が目標水準に上がってこない事や、大規模緩和が長期化し政策の副作用への懸念が高まっている背景から、物価目標や政策手段の見直しを1年程度かけて議論していくことを決定した。今後、点検が完了するまでの間は、大きな負のインパクトがない限り、現状の金融政策が維持されることになるだろう。

ユーロ圏の景況と英国EU離脱の影響

ユーロ圏の製造業PMI【図1】は、景況拡大と悪化の節目である50を割れているものの底打ち感もあり、2020年には在庫調整が進展することで徐々に生産を持ち直し、製造業は緩やかに回復に向かうと予想される。市場参加者がユーロ安・ユーロ高のいずれを警戒しているかを示唆するリスクリバーサル【図2】をみても、2019年夏以降はユーロ高に対するヘッジが増加して数値が上昇しており、ユーロ安方向への警戒感が和らいでいる事が分かる。但し、1月末に英国がEUから離脱し、今後開始されるEUとの新たな貿易協定の交渉は過去のこれまでの交渉を踏まえると数年単位の期間を要する難しい交渉になると想定される。英国は2020年12月末が期限となる移行期間を延長しない構えを見せており、移行期間中に新たな貿易協定が締結されずに事実上の合意なき離脱に至る懸念が高まってくれば、再度景況の悪化が懸念され、ユーロ安への警戒感が高まってくる可能性もあるだろう。

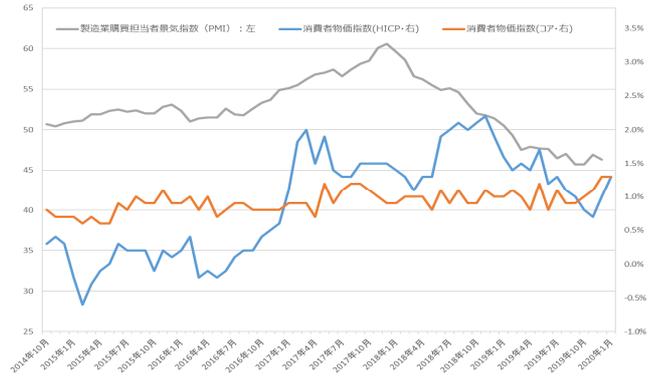
今後のユーロ相場展開

今後のユーロ相場は景況感の悪化に歯止めがかり始めている事から底堅く推移するだろう。但し、ECBの金融緩和戦略の見直しにより大規模緩和が長期化することが予想され、英国のEU離脱の移行期間延長を巡る不透明感も残る事から、上値は限られる見通し。

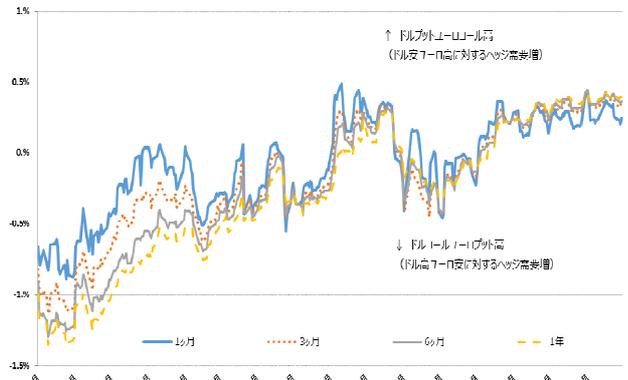
ユーロドルは米大統領選挙の動向や米欧貿易通商への見通しに左右される展開を予想する。欧州車への追加関税等の圧力がかければユーロ圏の景気減速懸念が再燃する可能性もあり注意したい。

ユーロ円はECB・日銀共に金融緩和余地も限られている事から、当面はレンジ圏での推移が続く見通し。但し、ECBが政策見通しの途中経過として緩和の打ち止め感や修正観測が強まった場合は一時的にユーロが買われる局面もあるだろう。
(市場営業部/川合)

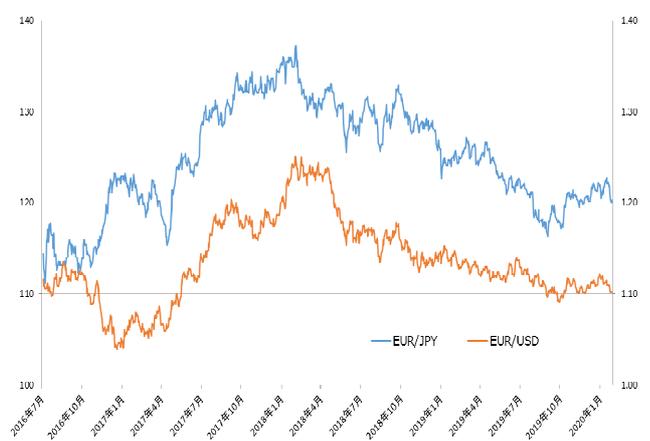
【図1】消費者物価指数と製造業PMI



【図2】ユーロドルのリスク・リバーサル



【図3】ユーロ相場 (対ドル、対円)



(出所 Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会